

## 高齢者や障害者を支える 医療・福祉体制の構築

- ① 地域包括ケアシステムの早期実現。  
住み慣れた地域で自分らしく暮らし人生の最期を迎えられるように、医療や介護・看護・生活支援などネットワーク体制を構築します。  
▶ 旧浜屋ビル整備運営方針を決定しました。少子高齢化に向けた対応策として、「おおむら暮らし」を丸ごとサポートする「地域包括ケアシステム」の拠点として整備・運営を進めます。
- ② 在宅療養を支える地域医療の整備と施設間連携強化。市内を地域ブロックに分けた医療・福祉施設の連携強化、地域住民と医療・福祉従事者との情報共有、認知症対策のための人材育成など、きめ細かい在宅医療体制を構築します。  
▶ 継続的に「認知症サポーター」「認知症支援リーダー」を養成し、市民が主体となって地域課題の解決を図る「高齢者地域ネットワーク」を進めています。多様な人材で構成する「地域ケア会議」を各中学校区に設置します。
- ③ スポーツ施設(テニスコート・グラウンドゴルフ・野球場)を充実し、予防医療と健康寿命対策を強化します。  
▶ 今年度より、総合運動公園(黒丸町)の多目的広場・グラウンドゴルフ場を供用開始しました。人工芝テニスコート整備にも着手しました。野球場の改修工事は、平成29年度中の完成を目指し進めています。「ねんりんピック長崎2016」の開催を契機に、スポーツを通じた健康寿命の延伸に取り組みます。

## 子ども達を支える 安心・安全な環境整備

- ① 中学生まで医療費を無料化します。  
▶ 本年1月より、小学校まで医療費助成を拡大しました。今後、中学生までの医療費無料化について、子育て世代へのヒアリングを実施します。今年度より、インフルエンザワクチンについて、小学生まで助成対象を拡大しました。
- ② 中学校給食の早期実現と食育の推進を図ります。  
▶ 平成29年1月に萱瀬中学校、同年10月に玖島中学校で先行実施し、平成30年度には全校実施となります。平成29年度に、新たな「食育推進計画」を策定します。
- ③ 小中学校教育へのエアコン設置、理科室や音楽室などの特別教室へ扇風機を設置。児童(生徒)や教員へのAED使用方法の徹底、通学路や自転車事故防止策を進めます。  
▶ 今年度、市内21校すべての図書室にエアコンを新設、理科室や音楽室などの特別教室へ扇風機を設置しました。事故防止については、事故発生の調査分析を進めるため、NPO法人ラブ&セーフティと連携し、子どもの安心・安全な環境づくりを進めています。

## 郷土を愛し、命を守る、 地域教育日本一

- ① 公立幼稚園／保育園／小学校／中学校の併設・連携により、地域を愛し地域で育てる大村独自の一貫教育を進め、学力向上と生きる力を養う教育環境を整備します。  
▶ 連携教育に向けた実施計画を進めています。2学期制の検証と3学期制への移行について議論を進めています。平成29年度より本格的にICT教育を導入します。今年度より、「中学生子ども議会」の開催、改正公職選挙法に伴う若年層の政治・選挙への関心を高める新規事業を開始しました。先の参院選における本市の18歳投票率は県内トップとなりました。
- ② 命を生む、守る、育てるための、出産支援・自殺予防・子育て支援を進めます。また、動物の命も同様に、殺処分ゼロを目指し里親制度の充実を図ります。  
▶ 自殺予防について、厚生労働省との連携により「自殺の実態解明と効果的な介入プログラムの開発に関する学際的研究」を進めています。犬猫の殺処分ゼロを目指し、不妊治療費助成に向けた協議を進めています。
- ③ 市内周辺部の定住促進による児童数確保、校区割りを見直しマンモス化の解消と地域コミュニティの再生を図ります。  
▶ 平成29年度より、新たな特別転入学制度の拡充に向け協議を進めています。地域のお声を聴き、校区割りや新しい子供会のあり方についても協議を進めていきます。

## 組織改革、行政改革、財政改革

- ① 市役所組織に事業本部制を導入し、予算や人事、責任と権限を与えた意識改革を図ります。  
▶ 平成29年度の組織再編や人事制度(評価)のあり方について協議を進めています。事務ミスによる再発防止プログラムと不祥事における公表基準の明確化について取り組みを開始しました。
- ② 行政改革による事務事業の見直しと、更なる財政健全化を進めます。  
▶ 新たな行財政改革に着手するため「補助金のあり方に関するガイドライン」を策定しました。平成29年度予算編成に向けては、スクラップ&ビルド、サンセット方式による各種事務事業の見直しを進めます。
- ③ 市有地の積極的な売却と整理、定期借地権や資産活用による新たな財源確保を進めます。  
▶ 土地開発公社の未処分所有地を売却し新たな財源を確保しました。今後の公共施設の再配置(整備)についても、新たな財源確保策を研究しています。

## 市役所を新築移転、バス交通の見直しと 充実、公共施設の再整備計画

- ① 市役所の新築移転として、さくらホール駐車場か新幹線駅前を候補地と考えます。市役所1階部分には県営バスターミナルを併設した複合化を図ります。  
▶ 今年度中に候補地を示します。市役所建設のあり方については、市議会や市民のご意見をお聴きし、早急に進めていきます。
- ② 市内4拠点(市役所、大村駅、新大村駅、新幹線車両基地)や医療機関、商業施設等を循環する県営バスと、住宅や商業地域を巡回する民間バスの導入を図り、きめ細かいバス交通体系へ見直します。  
▶ 本年3月、「大村市 地域公共交通網形成計画」を策定しました。平成29年度より、モデル地区2ヶ所(福重・松原地区／荒平・水計地区)にて乗り合いタクシーでの実証運行を開始します。
- ③ 老朽化した公共施設の再整備(新築／改修／廃止)を進め、市民が利用しやすい行政サービス拠点を整備します。  
▶ アセットマネジメントの策定により、今後の人口動態と街づくりによる公共施設の再整備と再配置を進めていきます。

## 市民会館の早期新築、大村湾を活かした イベント企画、ポート場の多角的運営

- ① 市民会館の早期新築計画を進めます。また、県立・市立一体型図書館を拠点に文化・芸術エリアと位置付け、市民の音楽、文化、芸術活動の推進を図ります。  
▶ 市民会館建設については、場所や手法も含めて協議を進めています。市内全域に音楽・文化・芸術があふれる各種事業に取り組んでいきます。
- ② 大村湾を活かしたイベントとして、「チャリソン(自転車+マラソン)大村湾一周」、「大村湾沿岸自治体で日本一の花火大会」などを企画開催します。  
▶ 大村湾沿岸5市5町によるネットワークを強化します。平成29年度の地方創生目玉施策として、大村湾を柱とした各種事業や企画提案を進めています。
- ③ ポート事業について、若者の遊び場となるエクストリーム・マリンスポーツを絡めたレジャー施設へとイメージ転換を図ります。  
▶ 「チームラボアイランドー学ぶ!未来の遊園地ー」や、エクストリームスポーツ関連のイベントを定期的に開催しています。今年11月、場内に新たな「エクストリーム広場」を新設しました。平成27年度の総売上は約672億7千万円(過去最高)、純利益は約11億3千8百万円(11年連続黒字)、3年ぶりに市の一般会計へ3億円の繰り入れを再開しました。平成29年度にナイターレースを導入します。更なる増収増益により市の財政へ寄与し、各種行政サービスの拡大を目指します。

